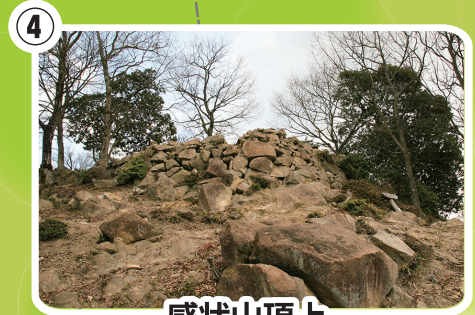
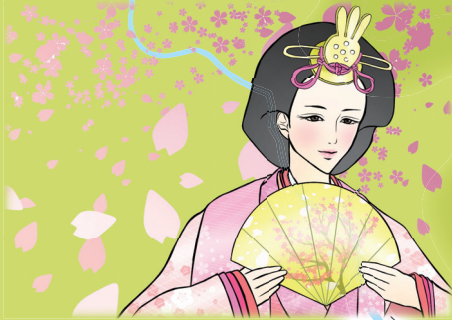


相生探訪ウォーキング

感状山城跡を歩く

【約 7.5kmコース】

～お姫様伝説をたどって～



感状山頂上



瓜生羅漢方面に降りる

羅漢石仏



藤堂

石碑



里の店



山道を登り

矢野町森

光専寺
卍



矢野神山を望む



金堀の地蔵



バクの道から入る



大池

矢野町瓜生

スタート
ゴール

矢野町上



瓜生八柱神社

× 矢野駐在所



道標



0m 50m 100m

矢野町



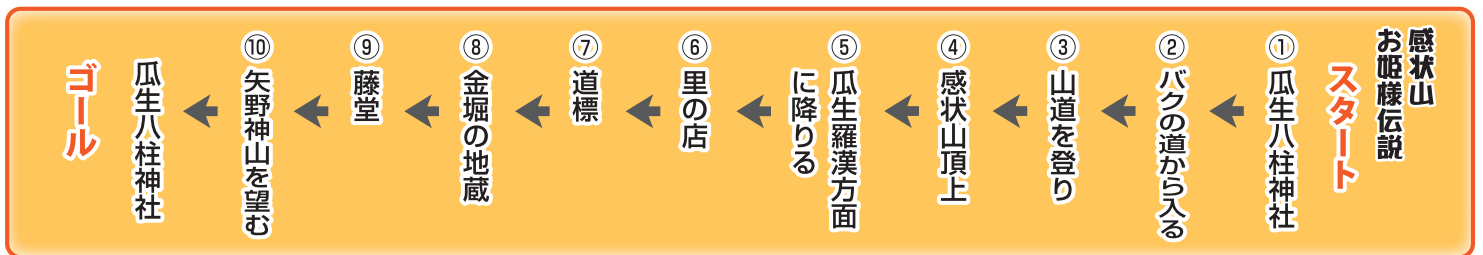
感状山-お姫様伝説

感状山城が落城した日、城にはふたりの姫がいました。

押し寄せる大軍に逃げ迷った姫の1人は、人手にかかって恥をさらすよりはと、日頃、可愛がっていた金色の羽を持つ鶏を抱いて、城内にあった井戸に身を投じました。それ以来、毎年、元旦がくると、その井戸の中から鶏の鳴く声がきこえるといひます。

もう1人の姫は、城を逃れて、城下の藤堂(とうどう)村にたどりつきました。藤堂村の人々は、姫を大事にかくまい、その後も大切にもてなしました。姫は亡くなる直前に、「お世話になったお礼にこの村では、美人ばかりが生まれるようにお祈りします」と言ったそうです。

それ以来、藤堂村では、代々、美人が生れるといひます。伝説のお姫様を偲びながら感状山を登って藤堂までたどります。



④ 感状山

建武年間、足利尊氏の追討をしていた新田義貞の率いる軍勢を城主赤松円心の三男 則祐そくゆうが奮戦し 50 余日にわたり足止めをした結果、足利尊氏の反撃の機会を与えることとなったことは歴史上有名。この功績により、足利尊氏が赤松則祐に感状を与えたことから感状山と呼ばれるようになったといわれている。

城跡は規模が雄大で眺望がよく、人の手による破壊などもなく、石垣や建物跡・礎石、井戸跡などの遺構が比較的よく残されているといった点では、播磨地方の代表的な中世山城の遺構である。

「感状山城跡パンフレット」より

① 瓜生八柱神社

祭神 国狭槌命など八柱の神(男神五柱、女神三柱)を祀る。瓜生は天津神が天下り、国津神が住んだところで「化生」の訛音である。以前は八王子神社であったが、今は八柱の神を祭るので八柱神社という。明治41年、各字にあった荒神社を境内の二社に合祀、近年、瓜生大池の弁才天(ベダイさん)を合祀した。境内に向かって右端に、感状山城への登り口「バクの道」がある。

「矢野ふるさと散歩」より

⑨ 矢野神山

北から並ぶ高厳山・権現山・龍王さんを称して矢野神山という。権現山の頂上直下にある三角形の岩には神が宿るといわれ、古きは「朝な夕なに、神が降りたという天狗岩を拝んでいた」という。権現山の下にある龍王山にも巨岩があり、巨岩の南側には龍王社が祭られている。

「矢野ふるさと散歩」より

⑩ 藤堂

感状山の南側のふもとにある一区画。現在8軒件の家が並んでいる。その裏にはたくさんの民家があったことを思わせる石積が残っている。藤堂城と彫られた石碑がある。

⑧ 金堀の地蔵

建武年間に金を堀り出したとのことから金堀という。昔は村はずれで墓場があり、夜そこを通ると狐が石をなげたという。由緒は不明であるが、村人の信仰は厚く、花が絶えることはない。

「矢野ふるさと散歩」より

